

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として『自分らしくゆっくりと、ゆとりのある暮らし』を理念とし、案内のパンフレットや玄関の掲示板に掲示している。	○	グループホームあゆの目指すサービスのあり方なのだから、迷わず理念に向って取組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	その人らしさとはどういうことかを意識し日々取り組み、随時理念周知の為の話し合いを行っている。	○	管理者と職員が理念を共有し合い実践していけるよう、日々職員のケアの質向上に取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	町内の総会時や町内の方々を招いたお茶会時や家族会会合時などに話し合いを持ち理解してもらえるようにしている。3ヶ月に1回会報を町内の方々・家族に配布している。	○	町内の総会時や地域の方々の集いの場において地域密着型サービスとしての理念を浸透させたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板を届けてもらったり届けたりしている。花や野菜の育て方を教えてもらっている。散歩の際には立ち寄ってもらえるよう声掛けをしている。会報にて呼びかけをしている。	○	日々の散歩にて挨拶をかわすことにより近隣の方々が入居者の顔を覚えていてくれ、気軽に話しかけてくれるようになった。馴染みの関係を築いていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一軒の家として町内会に加入している。町内行事・小学校行事に積極的に参加し、交流を深めている。また、小学生が訪れてくれている。	○	年3回の地域の清掃活動に職員のみが参加していたが、利用者にも短時間参加を促したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	まだ取り組んでいないことなので、今後職員と話し合いを進め、検討していく課題です。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を話し合い、外部評価を日々の振り返りの機会と捉え、出来ることから少しずつ取り組んでいる。地域・家族との関わりを深めている。	○	評価を管理者・職員は真摯に受けとめサービス向上に活かしていきたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の評価後、会議にて報告し話し合いを行った。9月の会議にても評価への取り組み状況を報告し話し合いを行った。	○	運営推進会議に多くの方に参加していただけるようになり、貴重なアドバイスをいただいている。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関してなどわからないことに対して相談している。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットなどをファイルし職員間で知識の共有を図っている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所で勉強会を行い防止に努めている。利用者のサインを見過ごさないよう注意を払っている。	○	言葉遣いや接する態度などの接遇に注意を払っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明を行い、再度不明な点を聞き説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの話を聞くに徹し、心を通わせ職員各々が利用者さんにとって安心できる存在になるよう努めている。法人内の交流が頻回にあったり、外部の方の訪問もあったりと表出できる機会を設けている。	
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会がまめにあるので日々の生活の様子や体調など報告できるよう、日々の記録の確認や月1回のカンファレンスにおいて情報の共有を図っている。金銭出納報告は家族に毎月送っている。	○  職員が異動する時は、入居者に説明し職員・入居者全員で食事会をしている。家族には写真入手紙や家族会集いの場にて報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情解決体制についての方法が明記されている。アンケート用紙を玄関入り口に置き、自由に記入することが出来るようにしている。家族会があり、代表の方からの意見を伺うことが出来る。	
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートを通して、意見を記入してもらっている。いつでも意見や提案の言える雰囲気である。意見や提案を言えるよう聞けるよう食事会の席を設けている。	○  職員は意見を管理者に言えている。その意見を管理者は運営者に伝えている。また、運営者は食事会を設け、直接職員の意見を聞いてくれることもある。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて、勤務時間の変更、人員配置については全て話し合いにて調整している。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動や離職の場合、利用者に不安を与えないよう、前任職員と後任職員が2ヶ月間一緒にケアにあたり早く馴染んでもらえるよう努めている。職員間でも協力し合い、心配りしている。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回他の部署との検討会議を行っている。折りに触れ上司より指導を頂き、研修への機会も頂いている。</p>	○	<p>研修報告会を行っている。研修報告書を作成し、閲覧してもらっている。職員間の日常的な疑問には、管理者含め理解・納得できるまで話し合っている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホームとお互いに訪問し合ったり、電話で連絡を取り合ったりして意見交換し、質の向上に努めている。</p>	○	<p>近隣のグループホーム職員との食事会を行い、親睦を深め質の向上を図っていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>協力し合える環境づくり、何でも話せる雰囲気づくりに努めている。職員の親睦を図るために食事会を行っている。</p>	○	<p>今後も食事会を行いたい。旅行なども計画してみたい。(職員の家族と共に)</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>日々、勤務状況の把握に努めている。仕事に自信をもち、働けるよう言葉掛けをするよう心掛けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活史から予測される心理的抵抗を理解し、共感的姿勢で人間的温かさをもって傾聴している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	安心をもたらす雰囲気の中で、ゆっくりと傾聴する時間をとった面接を行い、手がかりとなる援助方法の提案に努め、十分な心理的サポートができるよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の家族が表明した意見や感情に沿う支援を見極め他のサービスの情報提供もするよう努めて、柔軟な対応を心掛けている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に利用者や家族に何度かグループホームに訪問して頂き、他利用者とお茶の時間を過ごしてもらっている。職員が利用者に会いに行ったりしている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や食事作りなど様々な事を一緒に行う中で、学ぶことが数多くある。職員一人一人が利用者の個性や力を大切にしていこうと努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に四季折々の花見に出掛けたり、グループホームにてスイカ割りや花火・食事会などを行っている。利用者が就寝するまで一緒に過ごしてもらおうこともある。	○ 家族より「行事に参加する事は楽しい。」「どんどん声を掛けてください。協力しますから。」との声がある為、家族との良好な関係作りに努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員一人一人が本人と家族との関係を理解し周知し対応に努めている。幸いにもどの利用者にも面会が頻回にあり、横浜・東京などからも月1回は面会に来てくれる。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の親戚・知人・友人の方々が気軽に面会に来られている。また、会いに行ったりもしている。面会の際には、居室にてお茶を飲んだり、食事を一緒に摂ってもらいゆっくり過ごしてもらっている。	○ 今後も馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やお茶の時間、体操やゲームの時など声掛けをし、一緒に過ごしてもらおうよう努めている。居室より出てこない利用者があると心配するような関わりが出来ている。	○ 利用者同士の関わり合いが深められ互いに支えあっていく関係作りができるよう努めていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了しても「あゆ」の近くに来たときは寄っていただくよう声掛けをしている。会いに行ったりすることもある。	○ 利用終了後も相談や支援に応じる姿勢を示していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活における関わりの中で、声掛けや話をしながら入居者一人一人が求めていることを把握している。希望等の意向の表出が困難な場合には、家族の協力を得て、意向の把握に努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	食事中やお茶の時、入浴中や散歩時の会話の中で生活歴や馴染みの暮らしを聞くようにしている。面会時に家族・知人・友人からも情報を得るよう努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活歴から人と接することを好まない利用者には、朝夕の挨拶だけでもフロアに出てきてもらったり、入浴を好まない方には、手浴足浴から施行している。	○ 一日の過ごし方に波があるが、何が出来るのか、現状の中で判断し有する力を発揮してもらえよう努めていきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時を利用して、本人・家族と相談して、意見・要望を踏まえて介護計画を説明し、同意を得ている。職員の気づき、話し合いの内容も情報として介護計画に反映している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月を目安にしている。職員が課題を出し検討し合っている。その結果を踏まえ適宜見直しを行い、家族の同意を得ている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には利用者の過ごし方などが記録され、発した言葉・態度などをありのまま記入している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊時の迎えの時間の変更や食事の変更にも柔軟に対応している。異動となった職員が頻繁に訪れてくれ馴染みの関係を継続している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学生との交流、地域の子供会との交流、中学生によるマイチャレンジ活動、警察による交通講話、ボランティアによる民話と様々の機関の協力を得ている。	○	利用者がより安全・安心且つ豊かな暮らしが楽しめるように様々な方々の協力を得て、今後も取り組んでいきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前のケアマネジャー等の訪問があったり、他施設や同法人内のケアマネジャーなどと意見交換をしたりして情報を得ている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	昨年度まで運営推進委員の中に包括支援の方が入っていて、その都度相談していたが、委員が市の職員に変わり、協働していないのが現状。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化した場合の事業所としての対応について、家族・施設長・事務長・管理者とで話し合いを行っているが主治医・本人を交え繰り返し話し合いしたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>医療関係者等と連携を図り、今後の変化に備えて体制作りを強化していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設に移る方には、家族の方を含め相談し決めている。対応の職員に状態等を情報提供している。移動後も情報を得ると共に面会にも行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人のプライバシーを尊重して、居室に入る時にはノックをしたり、名前を呼ぶ際にはさん呼びを徹底している。個人記録ファイルを名前が見えないよう配慮している。記録には居室のネームで記入している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行事や外出時には自分で決定できる様に声掛けを行っている。毎日の食事についてどうしてほしいか準備の段階で聞き取りをしている。入浴後どの洋服を着るか自ら選んでいる。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の訴えを素通りしないように時間割にとらわれることなく利用者に向き合える現場であるよう話し合い、スケジュール通りに仕事をするのではなく、利用者のペースを大切に支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容室・美容室が出張してくれ、カット・カラー・パーマを楽しんでいる。どちらにするのかは利用者が決定している。デパートに行き洋服や髪飾りを自ら選んで購入している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>今後も食費の遣り繰りをし、利用者の好むうな重、寿司、刺身、ケーキなどを提供していきたい。また、外食などで好みのメニューを食してもらいたい。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>オムツをしなないですむように、トイレで排泄できるように、布パンツで過ごせるように努めたい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>一人一人の希望する時間帯に入浴できるよう努めたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>大金の管理や日常の出納は家族との話し合いにて管理者により管理している。ちょっとした買い物は小銭を手渡し、レジにて支払いをしてもらい購入してもらっている。</p>	
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日散歩するよう心掛けている。本人希望によりドライブや買い物に出掛けている。</p>	
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>他利用者や家族と共に花見に出掛けている。回転寿司、レストランでの食事に出掛けたり、デパートでの買い物など支援している。墓参りや懐かしい場所への外出支援が行えていない。</p>	<p>○</p> <p>自宅への外出を希望されても、家族の方で受け入れてもらえない方がいるので相談し対応に努めていきたい。(入居前の不仲・独居などから)</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話をしたり、かかってきたりしている。年賀状、暑中見舞を全利用者が書いて出している。</p>	
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会時間は設定していない。居室や『なごみ』の部屋などでゆっくり過ごしていただけるようにしている。</p>	
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ベットに柵はなく身体拘束をしないケアに努めている。同法人で行う委員会の資料をファイルし、自己学習するようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○	今後も近隣の方や交番の協力を得て、入居者の安全・安心の暮らしを支えていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○	ヒヤリハット報告が上がるたびに職員間で話し合い事故防止に取り組んでいきたい。リスクが大きい場所・内容について随時職員間での周知を図りたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○	緊急時の対応について利用者、家族より確認書に記入してもらっているが、意向に沿えるような訓練を定期的に行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	今後も、町内の方々の協力を得て避難訓練を行い、いざという時に確実な誘導が行えるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>主治医の往診時の話しや検査結果などを家族に報告し、起こりえるリスクについて納得と理解を得ると共に本人の意向に沿った支援が出来るよう話し合うようにしている。転倒の危険性の説明等も行っている。</p>	
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日の業務中で、バイタル測定を行いながらも顔色や様子に注意し体調を確認したり、食事量や排泄内容にも気を配り変化がある場合は、情報を共有している。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一人一人の薬の内容の周知を図り、処方薬の説明が直に分かるよう職員の目に付くところに置いている。薬変更時には口頭で伝えると共に申し送りとして記入し伝えてもいる。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>水分量のチェックを行い、水分補給を促すと共に食物繊維のものをメニューに取り入れたりしている。日々の散歩やリハビリ体操や運動を促し努めている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、居室洗面台に誘導し、義歯洗浄やうがい、歯磨きなどを行っている。就寝時には義歯洗浄剤に浸してもらっている。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量・水分量を記録している。朝食・夕食時には味噌汁・お茶を出し、昼食時には牛乳・お茶を出している。いつでも本人の好む飲み物が飲めるよう用意されている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルがあり、知識を共有している。月1回、随時同一法人の看護師により感染症対策の資料が配られ、職員への周知が行われている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの励行、マスク・エプロン（調理用）の着用、まな板・包丁の使い分け、調理用品の消毒殺菌を毎日行っている。食材は使用日当日、前日に届けてもらっている。日付の記入・確認を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに小学校より頂いたプランターを置いて花を楽しんだり、利用者と職員で植えたヘチマやゴーヤの成長を見ている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、清潔に努めている。散歩に行った時に摘んできた花を飾ったり、七夕、クリスマス、正月、ひな祭りなど季節行事にあわせて飾り付けをしたりして季節感を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前の椅子が団欒の場となっている。その他畳が敷いてある『なごみ』もあり、利用者は思い思いの場所で過ごしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室に畳があり、面会時には利用されている。それぞれにテーブルやぬいぐるみ、カレンダー等で自分の部屋を飾っている。</p>	○	<p>利用者が自分の部屋と思えるように本人・家族・職員で話し合い取り組んでいきたい。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>居室の窓、ドア等を確認のもと開いている。各居室・フローアール・お風呂場などは湿温調節に気を配っている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フローアの壁・トイレ・お風呂場には手すりを取り付けている。日中はトイレを利用してもらい、夜間は歩行状況により居室にてポータブルトイレを利用してもらっている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>茶碗・箸・カップは個人別になっている。トイレが分かりやすいように利用者目線でカタカナ表示してある。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>濡れ縁に座りお茶を飲んだり庭の花見たりし日向ぼっこをしている。</p>	○	<p>利用者が外の景色を眺める事が楽しみになるよう、前庭に多くの野菜や花々を利用者と共に植え楽しんでいる。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

運営推進会議や家族会に多くの方々の出席を頂き、当ホームのあり方や活動状況を報告し、家族会や地域の方々より利用者様の視点に立って助言をいただきます。孤独することなく家族、地域、法人内との交流を深め、当ホームへの支援のネットワークが広がるよう努めています。ちょっとした訴えや異変を見逃し素通りしてしまわぬよう周りに気を配る余裕がもてる処遇・業務を展開し利用者本位のあり方を徹底し馴染みの関係が築けるよう取り組んでいます。利用者様も私達職員も居心地のよい気持ちのよい大好きなグループホームを作ろうと、理念を共有し合い取り組んでいる事業所です。